

いのちの授業【美術科】学習指導案

指導者 N

1. 本時の指導

(1) 題材 存在証明(自画像を描こう)

(2) 目標 対象を深く見つめ顔の特徴をつかみ、絵に描くことができる。(美術科)

自分の顔を見つめ、描くことで、自分自身が存在し生きていることを実感する。(いのちの授業)

(3) 指導過程

	学習活動	主な発問(○)と指示()	指導上の留意点(・)と評価()
導入	自画像作品を鑑賞し、その作品の描かれた背景について理解する。	○自画像の作品を見てどのような印象を受けるか考えてみましょう。 何点が自画像作品を準備し、提示する。	・自画像作品から受ける印象を何人かに発表させる。 ・掲示用のほかに、何点かの自画像をプリントに印刷しておき、じっくりと鑑賞できるようにしておく。
展開	鏡を見ながら鉛筆で自分の顔をスケッチする。	○実際に鏡に映った自分の顔の特徴を描いてみましょう。 鏡をじっくりと観察し、なるべく写実的に描きなさい。	・顔の描き方について簡単に確認しておく。 ・イラストレーションのような作品ではなく今回は写実に描かせることで自分の顔をじっくりと観察させたい。 自分の顔をよく観察し特徴を捉えようとしているか。
まとめ	描いた作品をながめてみる。	○描いた自画像をながめてどんな印象を受けるかを作品の余白に書いてみましょう。 描いてみての感想を発表してください。	・印象を書けない人は、どのような気持ちで描いたのかを書かせる。 印象や気持ちを書くことができたか。 ・何人かに描いてみての感想を聞く。技能的な面ではなく描いている時に自分ことについて感じた感情を言えるように促す。
いのちの授業のまとめ	自分を見つめることで、自分が生きていることを実感する。	折にふれて自画像を制作する画家が多い。何かうれしい時であったり、挫折した時であったりと様々ですが、鏡に映った自分自身を描くことで決意を新たにしたりする、いわば自分の存在を確認する作業なのだと思います。鏡に映った画像は左右反対ですが確かにあなた自身を映しています。好きな自分、いやな自分いろいろな自分が映し出されたと思いますが、鏡に映ったあなた自身は確実にこの世に存在しています。	・自分の描いた自画像と鏡を交互に再度ながめさせる。

(4) 評価 対象を深く見つめ、特徴をとらえて描くことができたか。

自分の顔をよく見つめることで、自分自身が存在していることを感じられたか。